

平成 27 年度 第 2 回萩市立図書館協議会 議事録

平成 28 年 2 月 24 日 (水)

10:00 ~ 11:40

会場 萩市立萩図書館

出席者	協議会委員 9 名	三好健二委員・津田和夫委員・大島昌子委員 鎗分朋世委員・小池美晴委員・藤原重子委員 福島和子委員・中村由美委員・杉山芳文委員
教 育 長	中村 哲夫	
事 務 局	萩 図 書 館	高木館長・江山副館長・横山補佐 蜂屋係長
	須佐図書館	山本館長・河口主任
	明木図書館	野上館長・森岡主任司書
	田万川中学校図書館	杉山主査
	NPO 萩みんなの図書館	澤井理事長

1. 開会のことば (野上館長)

今年度も残すところわずかとなりました。新明木図書館の建設工事はまもなく終了し、3月27日に竣工式、4月8日に開館式を迎える運びとなりました。式には委員の皆様も是非御出席いただきたいと思っております。なお、2月28日から4月7日の間は、現明木図書館は休館し、新図書館の開館準備に入ります。新図書館のコンセプトは、現存する日本最古の村立図書館として、明木図書館を後世に伝えること。学校との併設であり学校図書室を兼ねるため、地域コミュニティの場としても位置付け、子どもからお年寄りまで世代を超えた交流を図り、地域に学び、地域を愛する、ふるさと学習の拠点となるよう学校づくりを支援していきたいと考えております。委員の皆様にも、本日は新明木図書館の運営管理等につきましてご意見をいただけます様お願い申し上げます。

2. 教育長あいさつ

明木図書館が、明木小学校と旭中学校との併設の中で開館を迎えます。今後は学校との繋がりがさらに広がることに期待をしています。読書活動については、市立図書館、学校図書館ともに頑張っています。大井小学校の児童が、読書感想文で毎日新聞社賞を受賞するなど成果があがっています。本日は、各館の今年度の事業報告、萩あいぶらり開館5周年記念セレモニー等の議題がある様であります。皆様方のご意見をいただきたいと思っております。

3. 三好会長あいさつ

最近、「知る自由」については、暗いニュースが多い様です。そんな中で、読書コンクールにおいて、萩高校の学生と大井小学校の児童が入賞され、われわれ図書館関係者にとっては喜ばしいことでありました。本日は、皆様の忌憚のないご意見を伺いたいと思っております。

横山補佐 規定により、議長は会長があたることになっています。三好会長、よろしくお願い致します。

4. 議事

会 長 議事(1) 各図書館の平成27年度事業報告及び平成28年度事業計画等について、事務局から説明をお願いします。

横山補佐 萩図書館の事業報告及び事業計画等について説明 (協議会資料1)

河口主任 須佐図書館の事業報告及び事業計画等について説明 (協議会資料1)

森岡主任司書 明木図書館の事業報告及び事業計画等について説明 (協議会資料1)

杉山主査 田万川中学校図書館の事業報告及び事業計画等について説明 (協議会資料1)

会 長 各館からの説明がありましたが、何か意見や質問はありませんか。

会 長 明木図書館の松林桂月写真展はどのような展示でしょうか。

森岡主任司書 昨年、博物館で松林桂月展がありましたが、その時の写真を借用して展示を行います。松林桂月が明木に住んでいたということもあり、明木での写真、山口県内の写真を中心に展示するものです。

会 長 議事(2) 子ども読書活動推進事業について、事務局から説明をお願いします。

江山副館長 子ども読書活動推進事業について説明 (協議会資料2)

平成25年3月に、5ヶ年計画の「萩市子ども読書活動推進計画」を策定しました。今年度は、山口県と萩図書館の共催事業で、「子ども読書ネットワークフォーラム in 萩」を来月12日に開催するにあたり、委員会の設置要項を定め、33名の委員の方に就任していただきました。委員会を2回開催し準備を進めています。来年度は、平成25年に策定した計画が後期に入るので、子どもの読書活動推進に向け具体的な取り組みを始めたいと考えています。各委員と連携を取りながら進めていきますが、協議会委員の方にもご意見をいただきたいと考えております。

会 長 事務局からの説明がありましたが、何か意見や質問はありませんか。

会 長 子どもとは、何歳から何歳までを指すのでしょうか。

江山副館長 対象として考えているのは、0歳から高校生ままでです。

会 長 数年前に、自分で調べて発表するというのを学校がしていて、読書率が増加したという記事を見ましたが、その後の情報等わかれば教えて欲しいと思います。

江山副館長 朝の時間に読書タイムを設けている学校が増えており、ボランティアが学校で読み聞かせをすることが浸透してきています。それによって、不読率が減ったと聞いています。新明木図書館は、学校図書館の機能を備えた図書館となりますので、司書と学校が連携して、学習支援・読書支援が進めていけると期待しています。

会 長 幼児から小学生は比較的読書率が高い。中学生の高学年から高校になると読書率が下がってくる。受験勉強の影響もあるのでしょうか。

江山副館長 利用状況を見ても明らかですが、中高生になると、貸出点数が相当減ってきている状況です。

事前に藤原委員から議題に対するご意見をいただいておりますので、回答致します。

(1) 計画の中に「蔵書の充実に努めます」の基となる視点(考え方)は、大人と子どもたちの読書ニーズとでは、どちらがより基になっているのかというご指摘です。子どもたちには、適切な時期に適切な本との出会いを与えたいと考えていますので、

子どもたちが読みたいというものよりも、図書館がきちんと選書したものを子どもたちに読んで欲しいという観点から、読んで欲しいものを基準に選書をしています。
(2) 子どもたちの読書ニーズはどのように収集されているのかというご指摘です。

リクエスト制度を設けていますので、子どもの声はそれにより図書館に届けられています。カウンターでの声もありますが、それを全て購入するのではなく、萩市立図書館の選書基準に合うと判断したものについては購入しています。そうでないものは、他の図書館から借受けし、貸出をしているのが実情です。

委員 子どもたちが課題を持ったときに、先生が図書館での調べ方を教える等、図書館には十分な資料がそろっているのに、学校から子どもたちが来るような流れをつくって、学校との連携が具体的にできるよう努力して欲しいですね。

江山副館長 学校には支援員が小中1名ずつ配置されているので、その方たちともっと連携し、子どもたちを支援していきたいと考えています。

委員 支援員や学校の教職員とコンタクトが取れるようにしていただきたいです。

教育長 子どもたちの調べ学習、課題解決に図書館を利用して、学習意欲も高まってきている例もありますが、最近はICTが発達してきており、インターネットで自分の疑問の答えがストレートに出てくるため、本をめくることがなくなっていきます。問題は、その答えの先をどう自分で探っていくか。学校で図書館の活用の仕方をどう位置付けるか、今後しっかりやっていかなければならないと考えています。それを踏まえた指導が必要であると思います。

澤井理事長 学校では、子どもたちに利用指導をしていかなければならないのですが、図書館人が確保されていないため進んでいないのが現状です。近年、調べ学習が高まっており、学校の先生から関連図書の問い合わせがあり、それに関する図書を貸出すことも増えてきています。ただ、先生の調べ学習に対する関心が高いかどうかによって成果は違います。身近な所に本がある環境を作っていくことも大切です。今後、さらに学校の先生方とも連携をしていかなければと思っています。

会長 ネットの利用については上手く使えばいいが、ネットで直接回答を求めるとなると浅くて問題があると思う。ネットは誰が書き込んでいるかわからないので、キーワードの組み合わせ検索による関連資料の発見と図書館などでの実物資料の確認によって、いい結果に到達して欲しいものです。

委員 中学生の子どもがいますが、朝の時間の読書タイムや、ボランティアでの読み聞かせにより読書意欲がわいているようです。子どもが読書ノートを付けていましたので読んでみましたが、どんなことを考えているのかとか、子どもの状況がよくわかります。子どもが親に本のことを尋ねてきますが、学校と図書館が連携して、図書館司書の50選とか、中学生に読んでもらいたい本50選とかをやってはどうでしょう。もっと司書の顔が見える図書館にしたらいいいのではないのでしょうか。

委員 大人の方から、先生とか司書の指導も大事だと思います。長女が5年生でフィクション系をよく読みますが、友達にその本を薦めたら、薦めた本を友達も借りてくれたと嬉しそうに報告してくれました。友達どうして本を薦めあって広がっています。大人の読書会でお薦めの本とかはよくありますが、子ども同士で繋がることもあるので、子ども同士がお薦めする本とか、子どものネットワークも大事だと感じています。

委員 大人の読み聞かせはありますが、子どもが親等に対して読み聞かせをしたらどうでしょう。そういった指導もして欲しいと思います。

教育長 読書ノートの活用は、始まってすぐ長い期間やっています。継続的にやっている学校

もあり、読書ノートのコンクールも実施しています。読書活動を支えている一つだと評価しています。

会 長 議事(3) 萩あいぐらり開館5周年記念セレモニーについて、事務局から説明をお願いします。

横山補佐 萩あいぐらり開館5周年記念セレモニーについて説明 (協議会資料3)

5. 報告

会 長 報告(1) 最近の図書館事情について、事務局から説明をお願いします。

江山副館長 最近の図書館事情について説明

最近では、ツタヤ図書館問題が世間を賑わしています。佐賀県の武雄図書館に始まり、愛知県の小牧市立図書館、神奈川県海老名市立図書館、本県の周南市立図書館と、CCCと提携して指定管理者の導入を検討する状況の中で、住民投票で反対多数により見直しをする館もあります。周南市立図書館では、新館の是非を問う住民投票を実施するための条例案が議会で否決されました。周南市の住民団体の主張は、営利企業の指定管理者が収益事業でない図書館を運営するのは矛盾があることや、コスト削減のしわ寄せはワーキングプアの拡大をもたらし、また、蔵書構成やレファレンスもおろそかになるとの懸念からです。全国的には、図書館全体の14.8%が指定管理者制度を導入しており、市町立図書館だけでなく、県立図書館にも導入館があります。司書資格と雇用関係で言えば、毎年一万人以上が司書資格を取得しているが、正規の公務員として働く場が減ってきています。指定管理で運営している図書館で、不安定な身分で雇用されている状況が加速しています。著作権の問題では、著作権保護が50年から70年になるという動きがあります。出版業界が不況で、新刊が売れないのは図書館が新刊を貸出すから本が売れないのではないかという意見が出版業界からあり、図書館に貸出猶予を申し入れるという動きもあり、図書館界には課題が沢山あります。

会 長 事務局からの説明がありました。何か意見や質問はありませんか。

会 長 萩図書館の入口に、「図書館の自由に関する宣言」が掲示してありますが、他の図書館ではあまり見かけたことがありません。当館の誇るべき点の一つではないでしょうか。図書館は知と文化と交流のセンターと言われていています。昨今、まちづくりや、にぎわいづくりのための図書館づくりが話題になっているようですが、その前に先ず、人づくりが大切であり、知と文化が疎かにならないよう気を付けたいものです。

委 員 社会人のための学びなおしの場となるような図書館を築いて欲しいと思います。読書の習慣をもつ大人を増やすべきですが、読みたい本があるが探しきれない人、読みたい本がわからない人がいます。カウンターに相談所を設け、積極的に導いていくことが必要だと思います。

高木館長 4番カウンターがあり、そういった相談を受ける場所なのですが、PRが足りていないのでしょうか。歴史・郷土史に関するレファレンスは2階のカウンターで受けています。

会 長 気軽に聞ける人を配置して欲しいという意見があります。郷土史等のレファレンスを担当していますが、来館者から上から目線だと見られないように気を付けていきたいと思っています。

江山副館長 聞かなくても分かるような表示をしなくてはいいですね。利用者にとって、カウンターは敷居が高いと思われがちです。もっと工夫する必要があると思います。

会 長 報告(2) 新明木図書館整備事業について、事務局から説明をお願いします。

森岡主任司書 新明木図書館整備事業について説明 (協議会資料4)

会 長 事務局からの説明がありました。何か意見や質問はありませんか。

会 長 明木出身の瀧口吉良氏について、福沢諭吉が福翁自伝という本に書いています。新図書館には、瀧口氏に関する本のコーナーを作りたいと思います。新明木図書館の特徴になるのではないのでしょうか。

会 長 報告(3) 萩図書館の運営基本要項の策定について、事務局から説明をお願いします。

高木館長 萩図書館の運営基本要項の策定について説明 (協議会資料5)

萩図書館の運営の考え方と運営要項(案)を作成しました。新館が開館して5年が経過します。全国で初めての、NPOとの協働運営も順調に推移しています。これまでは図書館運営スキルのアップに力点を置いてきました。全国の多くの図書館は、課題解決型図書館、地域密着型図書館として鋭意努力をしています。旧来の図書館は、学校教育の延長線上にありましたが、現在は社会教育の場、実社会と学校の間であり、社会に出てからの自己を確立するための訓練の場とも位置付けられています。本を読むことだけでなく、語り合う場、価値観のすり合わせの場となるよう運営しているため、多少の話し声があっても周りに迷惑をかけない限りは、許容の範囲としています。集会の場、懇談の場として、異業種の方の意見を聞き、主観的価値と客観的価値をすり合わせる場を提供するのが図書館の役割であり、積極的に進めていきたいと考えます。学校・学校図書館との連携についても取り組みます。全国の図書館の課題として、有効利用者に占める実利用者の割合が低いのが実情です。図書館は楽しい、図書館は意味がある、図書館は自分のためになるということを、より多くの人に伝えていくことが重要であり、努力していきたいと思います。図書館が市民みんなの図書館になるよう委員の皆様方からもご助言、ご指摘をいただきたい。

会 長 事務局からの説明がありました。何か意見や質問はありませんか。

委 員 児童クラブの支援員をしています。支援員の中で、子どもたちが本を読まないという意見があり、図書館に協力をしてもらい、毎週30冊前後の本を入れ替えて置くようにしました。支援員が本を読むことを強制してもなかなか読まないが、本が目の前にあれば、手に取り、開きます。きっかけさえあれば本を読むし、きっかけを提供すべきだと感じています。

委 員 子どもの検索能力はどうしたら養われるのか。私も図書館時代、できるだけ本を使って調べるよう指導をしていましたが、インターネットには結果が載っているので、それを利用することが多くなってきています。大人がまず学び、学生や子どもたちを本に導くことが必要だと思います。図書館事情として、防府市立図書館は、TRCへの指定管理を止め、4月から財団の運営に変わります。図書館は、場としての図書館より質としての図書館が求められていると思います。

委 員 子どもの読書活動推進について、教育現場と図書館のコミュニケーションが大事。幼稚園、保育園、学校との定期的な打合せが必要であり、学校の施策とどうかわっていくかが重要だと考えます。相談カウンターは、入口に近い方に作ってはどうか、気付かない人が多いと思う。

高木館長 相談カウンターについては、再検討します。学校現場は独立していて、実務が過大な状況であり、学校との連携はなかなか難しい。よほどの意識がある先生でないと、対応できない状況です。現実的には、司書が個別に繋がっているというのが現状です。

委員 市外の方から、萩市はイベントが多くてうらやましいと言われるが、知らないイベントも多くある。いろいろな人の目に触れるよう、イベントの周知に工夫をすべきだと感じています。

6. その他

横山補佐 次回協議会は28年6月末に開催の予定にしています。

7. 閉会のことば（山本館長）

委員の皆様方には貴重なご意見をいただき、今後の図書館運営にいろんな視点から考えていかなければと思っています。萩あいぶらり開館5周年、4月8日には新明木図書館が開館します。委員の皆様方の益々のご支援とご協力をよろしくお願い致します。本日はお疲れ様でした。

萩図書館

【平成 27 年度の事業について】

新図書館開館から5周年の年にあたり、記念事業として「萩が生んだ音楽会の奇才 兼常清佐」展や講演会を開催しました。また、3月21日の開館日には記念セレモニーを行います。新規事業として、議論する場としての図書館の発展・図書館員の育成を目指し、異業種からの講師を招き「ライブラリーセッション」を開催しています。

6・7月には郷土史・維新史レファレンス専門員によるミニ歴史講座「夏の歴史館」を開催し、多くの方が受講されました。

平成22年に導入した図書館システム等の更新を行いました。

【平成 28 年度事業計画について】

昨年に引き続き、「ライブラリーセッション」、ミニ歴史講座「夏の歴史館」を開催する予定です。また、定例行事も継続して実施すると共に、各種企画展示にも積極的に取り組みます。「NPO萩みんなの図書館」との協働を推進し、市民に親しまれる図書館活動に努めます。

平成28年中には、来館者数が200万人に達する見込みで、記念セレモニーを開催します。

【27 年度の主な行事 * 定例行事を除く】

5/17～5/31	男女共同参画週間関連展示
5月～3月	ライブラリーセッション
6/20	お父さんとおじいちゃんの読み聞かせ
6月～7月	ミニ歴史講座「夏の歴史館」
7/4～9/6	べっぴん！美形いきもの帳（博物館企画展関連展示）
7/25	大人のためのおはなし会
8/8	詩の朗読会～戦後70年平和への祈り～
8/11～8/27	姉妹都市交流展示
9/19～11/29	明治日本の産業遺産革命と萩（博物館企画展関連展示）
10/20～11/20	ブラインドブックマーケット
10/25	第5回図書館まつり
11/15	古本市
10/31	開館5周年記念講演「音楽格闘家 兼常清佐の生涯」
10/31～11/15	開館5周年記念展「萩が生んだ音楽会の奇才 兼常清佐」
11/21～11/29	「金澤翔子書作展」関連展示
12/12～12/15	人権週間関連展示
2/27～3/29	山口県内図書館連携イベント「図書館で知るやまぐちの幕末・維新」
3/12	子ども読書ネットワークフォーラム
3/21	萩あいぶらり開館5周年記念セレモニー

須佐図書館

【平成 27 年度の事業について】

主に須佐・田万川地域の読書普及活動を推進しています。「須佐図書館だより」及び「まなぼう号巡回のお知らせ」を発行し、須佐・田万川地域に全戸配布。平成 27 年 7 月に竣工した小川交流センター図書コーナーには、常時約 1,300 冊の図書の貸出を実施しています。平成 26 年度から発行を開始した子ども向け広報「まなぼう館だより」は、須佐・田万川地域の小中学校の児童・生徒に配布（年 4 回発行）。読書週間には、図書館利用が多い児童に対し、手作りのしおりをプレゼントする読書通帳利用促進キャンペーンを実施しました。

【平成 28 年度事業計画について】

従来どおり、毎週金曜日の工作・遊びの会、毎月第 2 土曜日のボランティアグループによるおはなし会を継続し、子どもに対する読書普及活動を推進します。

24 時間図書館としての特性を十分活用していただけるように、書棚の表示の追加・利用案内（資料配架図）のパンフレットの作成を行います。

【27 年度の主な行事 * 定例行事を除く】

- | | |
|------------|---------------------------------|
| 4/21～5/10 | こどもの読書週間行事「まなぼう館であそぼう！手作りおもちゃ展」 |
| 4/21～5/10 | こどもの読書週間行事「まなぼう館でまなぼう！はてな？に挑戦」 |
| 5/9 | こどもの読書週間行事「万華鏡を作ろう」 |
| 7/31 | 夏休み行事「おもしろ貯金箱を作ろう！」 |
| 8/20 | 夏休み行事「お気に入りの本を紹介 本の帯を作ろう！」 |
| 10/27～11/8 | 読書週間行事「折り紙作品展 みて、うごかして、あそぼう！」 |
| 10/31 | 読書週間行事「まなぼう館古本市」 |
| 10/31 | 読書週間行事「体験教室 ペタンコスタンプを作ろう！」 |
| 3 下旬 | 春休み行事 「まなぼう館 ふしぎの会」 |

明木図書館

【平成 27 年度の事業について】

平成 28 年 4 月の開館に向け、新明木図書館が建設中です。移転準備のため、一部図書館の利用が制限されていますが、可能な限り地域に根差した住民サービスを行っています。2 月 28 日から 4 月 7 日まで、移転作業のため休館いたします。

4 月から新校舎に移り、旭中学校と名称が変わる明木中学校の歴史を写真で振り返る写真展「明木中学校の思い出」を開催しました。また、現在は写真展「明木図書館の思い出」を開催しています。明治 39 年に創立した明木図書館の 110 年の歴史を写真や歴代館長名、新聞記事等で振り返ります。

【平成 28 年度事業計画について】

新明木図書館の開館記念の行事として、「松林桂月写真展」を開催します。子ども向けの定例行事や地域に根差した行事や展示等は引き続き行い、さらに地域の方の協力を仰ぎ、新しい明木図書館をより多くの方に利用していただけるよう努めます。

また、学校図書館の機能も兼ねる図書館となるため、小・中学校の児童・生徒・教師への読書案内・学習支援に努めます。

【27 年度の主な行事 * 定例行事を除く】

6/24	「お父さん・おじいちゃんの読み聞かせ会」
7/22～11/1	「写真展『明木中学校の思い出』」
夏休み中 5 回	「絵画教室」
11/8	「古本市・写真展・ふろく釣り」
12/1～2/27	「写真展『明木図書館の思い出』」

田万川中学校図書館

【平成 27 年度の事業について】

今年度も、毎月テーマを決めてコーナーを作り、本の紹介をしたり、「読み聞かせ会」を実施しています。田万川中学校の文化祭では、恒例の「古本市」も開催しました。

また、毎月発行している「図書館だより」を両面刷りにし、月の初めには、防災行政無線も利用して、新刊の案内等をしています。

【平成 28 年度事業計画について】

館内の「本の紹介コーナー」や毎月の「読み聞かせ会」は、継続していく予定です。

また、「図書館だより」等を利用して、「須佐図書館」等との貸し出しサービスについても知ってもらえるよう情報発信に努め、ひとりでも多くの方に利用してもらえるよう工夫していきたいと思えます。

調子の悪かったシステムを更新する予定です。

【27 年度の主な行事】

10/31	古本市
12/2～12/25	男女共同参画パネル展示
毎月	読み聞かせ会 テーマ展示

子ども読書活動推進事業

1. 「萩市子ども読書活動推進計画」（平成25年～29年）について

国を挙げて子どもの読書活動を支援するため、平成12年を「子ども読書年」と定め、平成13年には「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行し、平成14年には推進のための第一次計画、平成20年には第2次計画が策定され、自治体等に子どもの読書環境整備を推進することを求めました。

山口県では平成12年の「子ども読書年」の全国的な盛り上がりの中で、いち早く民間の「山口の子ども読書年」推進実行委員会を組織し、さまざまな取り組みをより実行性あるものとするために、平成16年に第一次「山口県子ども読書活動推進計画」を、21年には2次計画を策定し、子どもの読書活動推進に関する施策の方向性を示しました。

萩市では、平成25年度に「萩市子ども読書活動推進計画検討委員会」を設置し、同年3月に計画を策定しました。子どもの読書活動推進のため、図書館ではどのような活動を行なっていくのか、学校や保育園、幼稚園などにはどのような支援ができるのか、地域の人々にどのような役割を期待するのか、市民自身による活動を行政はどのように支援するのか、などについて、具体的に方向性を決めました。

2. 図書館の取り組み目標・・・別紙1

- ①図書館での子どもの読書活動の推進のために、5項目の取り組みを掲げています。
- ②子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援として、6項目の取り組みを掲げています。
- ③子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動として、3項目の取り組みを掲げています。

3. 目標達成のための具体的取り組み事項・・・別紙2

4. 今年度の取り組み（山口県立山口図書館との共催事業）

今年度は、萩市内で子どもの読書活動推進に取り組んでいる他機関とのネットワーク構築と連携による、子どもの読書環境整備のさらなる充実を目的に事業を実施します。

- ①萩市子ども読書活動推進計画を推進するため組織設立
萩市子ども読書活動推進委員会（委員数33名）
- ②フォーラム開催等のため委員会の開催
第1回 平成27年8月28日（金）
第2回 平成28年1月13日（水）
- ③フォーラムの開催
「子ども読書ネットワークフォーラム in 萩」
平成28年3月12日（土）10:00～

子どもの読書活動推進のための取り組み

図書館は、子どもが豊富な図書資料の中から自由に選択し、読書を楽しんだり、知識を得たりすることができる場です。また、保護者にとっては、子どもと一緒に読む本を選択したり、子どもの読書について職員等に相談することができる場所です。これからも子どもの読書活動推進の拠点となる施設としての専門的役割が期待されています。

子どもたちがたくさんの良い本と出会えるような環境整備を総合的に行いながら、読書意欲を向上させる活動を積極的に推進していきます。

(1) 図書館での子どもの読書活動の推進

① ネットワーク化によるサービスの推進

萩市では、萩図書館、須佐図書館、明木図書館の全3館の図書館が統合された図書館システムにより、資料の貸出や予約の受付等を行い、また効率のよい検索ができるようにしています。さらに子どもの読書活動に役立つよう読書通帳を導入しています。

このことにより、読書や図書館への関心を高めてもらうようにしています。

② 団体貸出の実施

幼稚園・保育所・小中学校・ボランティア団体等の団体に対して、希望に沿った本を長期間まとめて貸出しています。また、大型絵本や大型紙芝居は、団体に限り貸出しをしています。子どもの読書活動推進をしている団体のために、様々なニーズに応えられるよう蔵書の充実に努めます。

③ 貸出文庫の実施

子どもの読書活動を推進する上で、子どもの身近な場所に本がある環境を作ることが大切です。そのため幼稚園・保育所・小中学校・公民館等に定期的に必要な本の貸出しをしています。

④ 移動図書館車の巡回

図書館から遠距離にある地域や図書館への来館が困難な子どもの読書活動の支援ができるように、移動図書館車「わくわく号」「まなぼう号」を運行しています。

また幼稚園・保育所・小学校等を定期的に巡回訪問しており、子どもたちにとって幅広い分野の本にふれるよい機会となっています。さらに子どもたちの興味や関心に応える本を提供できるよう蔵書の充実に努めます。

⑤ 学校への協力

授業内容に沿った資料の提供、調べ学習に役立つ資料の提供などの支援をしていきます。さらに学校図書館の横断検索システムの導入を視野に入れて、学校図書館活動に協力をしていきます。また学校図書館活動や子どもの読書推進に関する研修会、読書活動関連行事等の紹介及び情報の提供をしていきます。

(2) 子どもの読書活動推進のための環境整備及び推進者への支援

① 蔵書の充実

子どもの幅広い知的要求や子ども読書活動推進者のために蔵書の充実に努めます。特に乳幼児の本の充実に努めます。さらに発達段階に応じた児童コーナーやティー

ンズコーナーを設け、子どもたちの読書のニーズに応えられるよう蔵書の充実に努めます。

② 子どもの図書コーナーの充実

発達段階に応じた子どもの図書コーナーでは、本に興味をもってもらうためにレイアウトの工夫をした特集コーナーを設置しています。さらに図書リストを作成して、年齢に応じた子どもが利用できる館内環境を確保していきます。また市内に居住する外国人の子どものために、外国語図書資料の収集も進めていきます。

③ 電子図書館

家庭のインターネットと接続されたパソコンの画面上で、いつでも電子書籍を借りて読むことができます。問題集、3D（3次元画像）の動物図鑑、言語学習のできる音声付のものや萩図書館所蔵の貴重資料を見ることができます。

④ 読書に障がいのある子どもへのサービス

読書に障がいのある子どもの読書活動を支援するために、「点字絵本」や「布の絵本」「DAISY図書」等の充実に努めます。

⑤ 読書活動ボランティアの活動支援とおはなし会の協力

子どもの読書活動にかかわる団体との連携を図りながら、ボランティアの協力によるおはなし会を開催していきます。また、これらの活動には幅広い知識や技能・技術が必要となるため、研修会や講習会を開催して資質向上を図るとともに、新しい人材の育成に努めます。

⑥ 図書館職員の資質の向上

子どもの読書環境の充実のため、子どもの発達段階に応じて子どもと本を結びつける技術をもった職員を養成するための研修に努めます。

(3) 子どもの読書活動への理解と関心を深めるための啓発活動

① 図書館行事の開催

未就園児対象のおはなし会、幼児・小学生対象のボランティア団体によるおはなし会等では、子どもたちに楽しく本と出会える機会を提供しています。特に、お正月やクリスマスなどの季節に合わせたイベントやおはなし会を開催しています。さらに図書館に親しみ図書館の利用を促すために、おはなし会や子ども向けの楽しい行事の充実に努めます。

② 図書館見学・職場体験の受け入れ

小学生の図書館見学、中学・高校生の図書館職場体験を受け入れています。今後も積極的に図書館見学、職場体験を通じて、読書の楽しさや大切さに気づいてもらい、図書館に行くきっかけづくりを支援していきます。このような体験を通して、図書館を身近に感じる子どもが増えることは、将来の図書館の利用者の拡大につながります。

③ 啓発・広報活動の推進

子どもにとっての読書活動への関心と理解が、市民の間に広く深まっていくように子ども向けの読書活動やイベントの内容をホームページや地域メディア等を利用して、情報提供をしていきます。子どもや保護者が読書活動に興味や関心を示すことで、読書環境の一層の充実に努めます。また、他の機関や団体による子ども読書活動関連行事等の情報提供も行っていきます。

萩市子ども読書活動推進計画「具体的な施策」

市立図書館における取組

予約、搬送、貸出等のシステムの拡充	○団体貸出・移動図書館によるサービスの充実	市立図書館 (萩・須佐・明木図書館)
幅広い図書館サービスの充実と環境整備	○計画的な図書資料の購入	
	○児童書コーナー、子ども図書館の蔵書の充実	
	○ティーンズコーナーの充実	
	○障がいのある子どもが利用しやすい資料の収集	
	○外国語で書かれた絵本や児童図書の収集	
	○子どもの読書案内相談の対応	
職員体制の整備	○図書館職員研修の充実	
子ども向け行事の充実	○子どもの発達段階に応じた絵本の読み聞かせやお話し会等の諸行事の実施	
保護者対象子どもの読書活動を推進するための行事等の開催	○本の帯コンクールの開催	
	○読書通帳の普及	
	○子どもの読書活動に関わるボランティアに対する読み聞かせの方法・本の選び方与え方の研修会の実施	
図書館行事や読書に関する情報提供	○ホームページ等を活用し、児童読書関連の情報発信	
	○新規に購入した児童書リストの作成	
	○おすすめブックリスト等を作成・配布	
他の公立図書館との連携	○児童図書の相互貸借、レファレンス・サービスの協力の強化	
学校図書館との連携	○学習用図書等の団体貸出の充実	
	○図書館訪問、職場体験学習の受入	
幼稚園や保育所等、公民館や児童館等の連携	○団体貸出の充実	
	○お話し会や児童図書に関わる各種の相談に対応	
「子ども読書の日」の周知を図る	○特別行事の開催	
	○広報活動の実施	

萩あいぶらり（図書館・児童館）開館5周年記念セレモニー（案）

期 日 平成28年3月21日（月）午前10時～

場 所 萩図書館

主催/共催 萩市/NPO萩みんなの図書館、NPO萩こどもセンター

次 第 1. 主催者/共催者あいさつ

2. 来賓紹介

3. 5周年の歩み報告

4. 感謝状贈呈

5. 「私の一冊」活動の報告と朗読

6. NPO わたしたちがめざしていること 宣言

7. NPO萩みんなの図書館より寄贈目録贈呈

8. 閉会の辞

新明木図書館整備事業について

◆新明木図書館建設について

工期 平成27年7月30日～平成28年2月26日
工事費 91,659,023円(面積295㎡分)
総事業費 約9,900万円(平成28年2月末現在)
延べ床面積 354.1㎡

◆移転作業・臨時休館について

臨時休館 平成28年2月28日(日)～4月7日(木)
荷物運搬 3月8日(火) ※業者による



◆新図書館の休館日・開館時間について

休館日 月曜日・祝日(月曜日が祝日の場合は翌日も)・
年末年始(12/28～1/4)
特別整理期間(蔵書点検等)
開館時間 9:00～17:30

◆新規事業について

OPACでの自動貸出(バーコードリーダー)
レシートプリンターでの検索資料の印刷
Wi-Fiの利用
読書通帳機miniの導入



◆竣工式・開館式について

竣工式 平成28年3月27日(日) 10:00～
開館式 平成28年4月8日(金) 13:40～13:55
※旭中学校開校式(13:00～13:40)終了後に開館式。
開館式後、図書館前に移動し、くす玉割り



「萩図書館

運営の考え方と運営要項」 (案)

平成28年3月

□ はじめに

萩図書館は、平成23年3月21日の開館に先立ち、平成19年3月に「新図書館・児童館建設基本計画」を策定しました。その中で謳われた基本理念「市民に親しまれ、気軽に利用でき、ひとづくりや暮らしに役立つ図書館」と、

「図書館のめざすもの」という4つの指標

- ① 市民のだれもが気軽に利用できる図書館
- ② 子どもの創造性を育む図書館
- ③ ひとづくり・まちづくりの源となる図書館
- ④ 市民の暮らしに役立つ図書館

を実現するため、全国初の試みとして「萩市」と「NPO萩みんなの図書館」との協働での運営を試みています。

■ 運営の基本的な考え方

社会情勢の変化や市民の要望が多様化・高度化するなか、図書館運営者の側も意識の変革が求められています。

「地域の知の拠点」として、市民ニーズに応える幅広い資料の収集・保存に努めます。また「課題解決型図書館」「地域密着型図書館」としてレファレンスサービスの充実にも努めます。

1) NPO法人「NPO萩みんなの図書館」との協働運営を推進します。

NPO法人は、市民が集い自主的に図書館活動を支援する組織です。萩市の場合、図書館運営業務の大半をNPO法人に委託し、萩市と「協働」する新しい概念で運営に携わっています。これは、指定管理者制度とは本質的に違う全国初の試みです。運営を軌道に乗せるため、関係者はもとより市民に幅広く理解と支援を求めます。

2) 「学校教育」と「実社会」をつなぐ「社会教育」「生涯学習」の場として活動を推進します。児童生徒は、学校で人間としてあるべき基本を学びます。

旧来、図書館はその延長線にあり、静かに読書に勤しみ知的好奇心を満たす場でした。しかし、現今の成熟社会では、知識はもとより人間形成、自己確立の契機となる場、即ち社会教育の場として図書館は、「読む」「借りる」「出会う」場だけでなく、「考える」「話す」「交わる」場の提供が求められます。

当館も、展示や講演、集会などに工夫を凝らし、目的の達成に努めます。

3) 学校・学校図書館との連携の強化に努めます。

学校や学校図書館との連携により、子どもたちに読書に親しむ機会をより多く提供し、多面的な学習あるいは調べ学習の手助けをすることはとても重要です。

学校図書館関係者と理解を共有し、子どもたちの知識と自立心を育む図書館活動に努めます。

4) 地域図書館として、特色のある地域資料、貴重資料の整理・公開に努めます。

萩市は、長きに亘り萩藩の藩都であったことから、当館には貴重な歴史的資料、郷土資料が多く保存されています。

時代の変革期にこれらの貴重資料は、体系的な整理・公開が求められます。

館の事情はありますが、地域図書館として特色のある取り組みをします。

5) 「市民みんなの図書館」になるよう活動に努めます。

現今、図書館界の課題の一つに、有効利用者に占める実利用者数の割合が低いことがあげられます。これは、IT化社会となり情報取得の幅が広がったことも一因と考えられますが、図書館の本質的な楽しさを市民に理解してもらおう努力が足りないという指摘もあります。

結果、図書館は特定の利用者のための施設と揶揄され、運営は正職員でも臨時職員でも同じではとか、指定管理者でもいいのではといった効率主義の議論になります。

私たちは、自らの資質を高めると共に、図書館の本質を伝え、市民がそれぞれの思いを持って、それぞれの利用の仕方でも図書館活動を楽しめるよう日々努力します。

■ 運営要項

1) 知的好奇心に応える図書館づくりを推進します。

①利用の普及と情報発信の強化

*情報を一元化して、ホームページの充実など効果的なPRを行う。

②資料の収集・保存

*資料選定会議を充実させ、効果的、計画的な収集を行う。

*司書の選書能力を高める。

*予約、リクエスト、レファレンスなどを分析し、市民ニーズを把握する。

③他の団体との連携

*県立図書館や市町図書館と連携し、相互貸借や地域資料の分担収集・保存等を継続します。

*国立国会図書館や山口大学図書館、国立国文学研究資料館等と連携して専門的調査・研究の充実を図る。

2) 地域の歴史と文化関連資料、行政資料の収集・保存・公開と電子化に努めます。

①郷土史、維新史関係資料の収集・保存

②萩焼、絵画、史跡等の郷土文化資料の収集・保存

③行政資料・地域資料の収集・保存

④地域資料のデジタル化と公開

- 3) 文化事業の開催・館内展示の充実に努めます。
 - ①図書館講座（ライブラリーセッション）の開催
 - ②講演会・展示会・企画展 等の開催

- 4) レファレンスサービスの充実に努めます。
 - ①レファレンスサービス事例のデータベース化
 - ②パスファインダーやテーマ別ブックリストを作成
 - ③郷土史・維新史に関しては、レファレンス専門員制度を活用
 - ④職員司書のレファレンス能力の向上

- 5) バリアフリーサービスの充実に努めます。
 - ①障がいがある方へ配慮した資料や機器・機材の整備・充実
 - ②大活字本や字幕入り映像資料等の利活用促進
 - ③録音図書や点字図書・点訳絵本の提供
 - ④音声読み上げ機能や文字サイズ拡大機能のある電子書籍の利用促進

- 6) 多文化サービスの充実に努めます。
 - ①外国語資料の収集に配慮
 - ②外国人利用者に翻訳アプリ導入機器を提供

- 7) 子ども読書活動の推進に努めます。
 - ①子ども読書活動推進計画に沿って、子どもが読書に親しめる環境づくり
 - ②おはなし会や読み聞かせ会など催事を通して、本に親しむ機会を提供
 - ③幼児期からの読み聞かせの大切さを理解してもらうよう、保護者にハローブック
セットを配布
 - ④読書通帳の普及

- 8) 職員の資質・能力の向上に努めます。
 - ①内部・外部の研修を実施
 - ②接遇研修等で、明るく親しみやすい図書館づくり